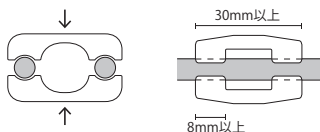


安全上の注意

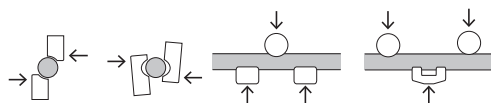
サドルレールはシートポストのクランプシステムの影響を受けます。不適切なシートポストを使用すると、レールの強度を損なったり、十分な性能が発揮できず事故の原因となります。以下の点に注意してください。

1 下図の構造・サイズを満たした適切なクランプを使用してください。

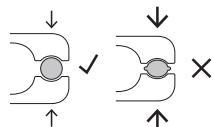
✓ 適切な構造のクランプ



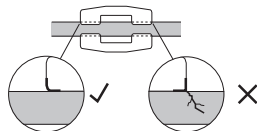
✗ 適切でない構造のクランプ



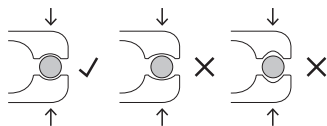
2 レールの破損・事故の原因となりますので、クランプを締め過ぎないでください。



3 角が鋭利なクランプの場合、レールの寿命が短くなり、早期にレールの破損を引き起こす可能性があります。



4 サドルレールを正しく固定します。クランプの形状によっては、サドルレールを損傷することがあります。



サドルのメンテナンス

サドルに付着した汚れや汗を取り除くには、水と少量の中性洗剤で湿らせた柔らかい布を使用してください。高圧洗浄機や溶剤ベースの製品（オイルやクリームなど）を使用するとサドルカバーが剥がれたり、サドルが破損したりする恐れがありますので、絶対に使用しないでください。通常の使用での汗、熱、紫外線、湿気による退色は、保証の対象外です。使用後のサドルは、直射日光の当たらない場所で自然乾燥させてください。汚れがサドル内部に入りこむと、ノイズが発生する事があります。その場合、ノイズが発生している箇所にシリコン系潤滑剤を使用してください。ノイズが持続する場合は、サドルを取り外し、クランプとサドルレールをクリーニングしてください。

保障期間：

ご購入日から2年間：製造上の欠陥による機械部品の不良が対象です。保障を受けるには、ご購入日の日付の入った領収書が必要です。領収書なしで保障を受ける場合の保障期間は製造年月日から起算させていただきます。お客様の事故などによる外的要因、誤使用、改造、およびこの取扱説明書に従わない本来の用途以外のご使用による故障は保障を受けられません。故障した製品は故障状況を明記して、お買上げの販売店へお持ちください。お送りになる場合の送料はお客様にてご負担をお願いします。



Ergonomic Saddle Series

サドル 取扱説明書

サドル高の設定

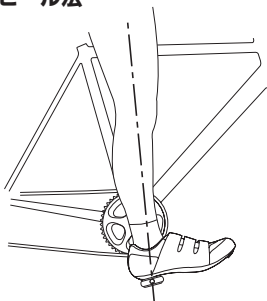
効率的なライディングのために、サドル高の設定は最も重要な要素です。
脚がほぼまっすぐに伸びているとき、パワーの伝達効率が最も大きくなります。
さらに、サドル高を正しく設定することで、着座時の骨盤の位置が最適化され、より快適に乗車できます。

サドル高を調整する方法は2つあります。

1つ目の方法は、サドルに座ってペダルの上にかかとを乗せたときに、脚がまっすぐになるようにサドル高を調整する「ヒール法」です。

脚がまっすぐになる状態でペダルに拇指球を乗せると、ひざがやや曲がった状態になります。その後、ライディンググタイプや最適な着座位置にあわせてサドル高を微調整します。

図1 ヒール法



2つ目の方法はやや複雑です。

靴を脱いだ状態で床から股下までの高さを計測し(図2)、次の式に当てはめてサドル高を決定します。

床から股下までの高さ × 0.885 = BB軸からサドル上面中央部までの距離

※この方法はクランク長を考慮していません。

図2 股下の測定

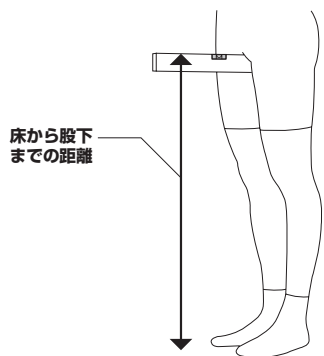
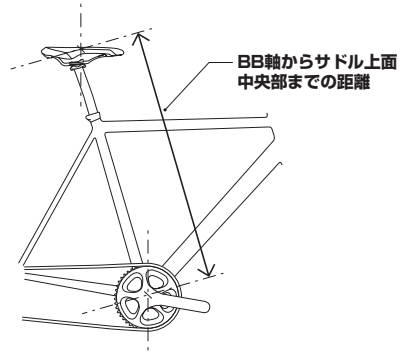


図3 サドル高



サドル前後位置の設定

クランクを水平にして拇指球をペダルに乗せたとき、膝蓋骨(膝の先)がペダル軸の真上にくるように設定します。(図1) その際、BB軸から垂直に伸びた線とサドルの先端との距離が約0~10cmになる範囲で設定します。(図2) 前後位置の調整は、必ずサドルレールのストップマーク範囲内で調整してください。(図3) サドルレールのストップマーク範囲外にサドル位置を設定すると、重大な事故または破損の原因となるので、絶対におやめください。

図1

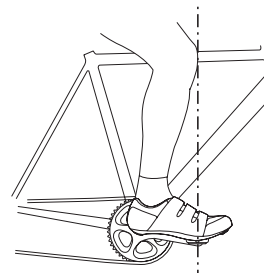


図2

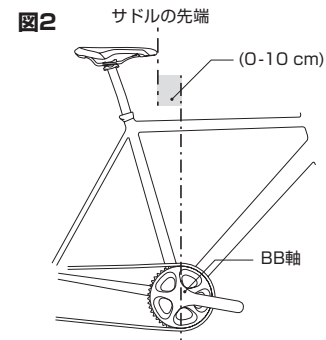
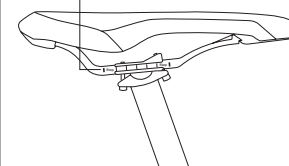


図3

注意: 「Stop」と書かれたラインの範囲内でサドル位置を調整してください。



サドル角度の設定

一般的には、サドルが地面に対して水平になるように設定します。

これにより、着座位置が前後に滑ること、また前方や後方に圧力が集中することを防ぐことができます。

また、上から見た時にサドルがフレームと一直線になるように取り付けてください。

これによって、サドルの最も広い面に坐骨が乗り、加重を均等に支えることができます。

前に座りすぎている場合は、サドルを前方にずらすか、サドル後部がやや下がるように傾けます。

